

港湾振興便り



2013. 2

第70号

* : * :

目 次

* : * :

1 ポートエッセイ

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

2 トピック

- 細島港 国際物流ターミナル ケーソン据付はじまる
(九州地方整備局 宮崎港湾・空港整備事務所)
- 「みなとオアシス宇出津」が誕生しました！
(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)
- 手づくり郷土賞受賞 ～万代中央埠頭（水辺のコミュニティースペース）～
(徳島県 県土整備部 運輸総局 運輸政策課)
- 道央圏港湾連携における防災に関する取り組みについて
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
- 東扇島基幹的広域防災拠点において防災訓練を実施しました！
(関東地方整備局 港湾空港部)

3 お知らせ

* : * :

1 ポートエッセイ 「成長戦略の早期始動に期待」

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

* : * :

安部政権が滑り出し好調だ。円安は1ドル90円台半ばまで進み、株高の動きも続いている。これを受け、企業の業績上方見直しもあちこちで聞かれる。

私の暮らす新潟では「新年会の雰囲気、どこか明るくなってきた」との声が経済人らから聞かれる。霞が関に漂う空気は明らかに変わってきた。「一番明るくなったのは、やっぱり国交省」というのが、首長仲間での定評だ。

経済に明るさが見え始めたせいか、先月23日に東京で開かれた「港湾関係団体新春賀詞交歓会」も盛会だった。太田国交大臣以下、自公政権の政務三役が顔をそろえる一方、政権の座を降りた民主党国会議員も数多く姿を見せてくれ、出席した国会議員は150人以上と聞いた。

港に関心を持ってもらう国会議員の数が増えたことは歓迎すべきことだが、この明るさを

上滑りで終わらせるわけにはいかない。「新政権は実際にはまだ何もしていない段階」だからだ。

大型補正予算案の審議がようやく始まった。新潟市では新政権の財政出動に機敏に対応することを心掛け、国の補正予算を最大限活用するとともに、市単独事業を前倒しで計上して経済対策関連で総額190億円近いものとした。政令市で見ると人口当たりでは圧倒的トップとのことだ。

早期に補正予算を通してもらい、経済効果を市民にお届けする必要がある。新年度予算についても、「ばらまき」の批判が起こらぬよう、地方自ら「選択と集中」を肝に銘じた提案が重要だ。成長戦略が各地で始動するよう準備を進めよう。港湾の振興は成長分野を伸ばす大きな武器となることを信じながら。

* : * :

2 トピック

* : * :

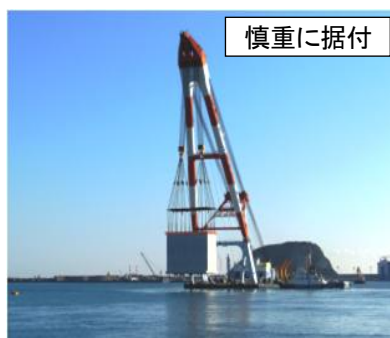
●細島港 国際物流ターミナル ケーソン据付はじまる (九州地方整備局 宮崎港湾・空港整備事務所)

平成25年1月24日(木)、国際物流ターミナルの整備をすすめている「細島港17号岸壁」に1函目のケーソンが据え付けられました。

今回の据付工事は、長さ20m、幅9.9m、高さ15mのケーソン13函、取付函2函の計15函を既存護岸より50m前出しし、岸壁延長260mを整備するものです。

25年2月初旬まで据付作業を行い、平成26年度の早い時期に完成を目指しています。

細島港は、今後、東九州自動車道「宮崎～延岡間」全線開通で陸上交通と港湾の海上交通がリンクすることにより物流面での大きな飛躍が期待されています。



●「みなとオアシス宇出津」が誕生しました！ (北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

平成25年1月20日(日)、宇出津港いやさか広場(能登町役場能都庁舎前)において、「みなとオアシス宇出津」の登録証交付式が行われました。

「みなとオアシス」制度は、「みなと」の施設を活用し地域振興に係る取り組みが継続的に行われる区域を「みなとオアシス」として登録し、みなとや地域の魅力を全国に発信することで、みなとまちづくりを応援するとともに、みなと来訪者の利便性の向上を図る制度で、平成15年に創設されました。

「みなとオアシス宇出津」は、全国で68港目、石川県内では、「みなとオアシス輪島マリンタウン」、「みなとオアシス七尾能登食祭市場」に次いで3港目の登録です。

登録証交付式では、持木一茂能登町長から「能登町は、古くから海と共に栄えてきた町である。能登は昨年6月に『能登の里山里海』が世界農業遺産に選ばれ、国内外から注目され始めている。『みなとオアシス』登録を契機に再び活気あふれる港町としてよみがえることを強く願っている。今後も港の賑わい創出に邁進していきたい。」と挨拶があり、北村茂男総務大臣政務官兼内閣府大臣政務官衆議院議員から「能登地域の振興を図るために、今回のみなとオアシス登録を生かしたい。」と来賓挨拶がありました。続いて、山口彦衛石川県議会議員から「役場庁舎がみなとオアシスに含まれているのは宇出津だけと聞いている。町を中心に宇出津港の振興を図ってもらいたい。」と挨拶がありました。

「みなとオアシス宇出津」登録証交付にあたって、東山北陸地方整備局次長から、「みなとオアシス登録を一つの契機として、港湾の整備や、来るべき北陸新幹線開業の効果と相俟って、能登町の観光振興が図られることを祈念する。」と挨拶があり、登録証が交付されました。

「みなとオアシス宇出津」では、例年1月に開催される「のと寒ぶりまつり」を皮切りに、4月の「宇出津曳山祭り」、7月の「あばれ祭」、8月の「港町宇出津灯りフェスティバル」など様々なイベントが開催されています。

今回のみなとオアシス登録により、全国への情報発信が促進され、更なる集客が期待されます。



<みなとオアシス登録証交付式>



<持木能登町長 と 東山次長>



<能登町役場前にて撮影>



<同日に開催された「のと寒ぶりまつり」の様子(宇出津港いやさか広場)>

●手づくり郷土賞受賞 ～万代中央ふ頭（水辺のコミュニティスペース）～

（徳島県 県土整備部 運輸総局 運輸政策課）

この度、「特定非営利活動法人 アクア・チッタ」による、徳島小松島港万代中央ふ頭の既存倉庫群を活用した「地域活性化」や「観光振興」を図る「にぎわいづくり」の取組みが、平成24年度手づくり郷土賞「一般部門」に選定され、平成25年2月5日（火）、本県において「手づくり郷土賞」認定書授与式が開催されました。

本県としましても、平成23年に「港にぎわい空間創出実証実験事業」として、万代中央ふ頭第二倉庫において実証実験を実施している「特定非営利活動法人 アクア・チッタ」と協働し、今後も継続して「港にぎわい空間」の創出を図っていきたいと考えております。

※「手づくり郷土賞」とは、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本や、それと関わりを持つ優れた地域活動を、発掘し評価する国土交通大臣表彰です（昭和61年度創設）。



【認定証授与式】



【港にぎわい空間の様子】

●道央圏港湾連携における防災に関する取り組みについて

（北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課）

北海道の道央圏5港湾（室蘭港、苫小牧港、小樽港、石狩湾新港、白老港）では、大規模災害時に物流網の麻痺を防ぐため、平成24年4月に道央圏港湾BCPを策定しています。今回、策定された道央圏港湾BCPの実効性を高める目的で、5港湾管理者と開発局合同で道央圏港湾BCPに基づく防災訓練を実施しましたのでご紹介いたします。

「道央圏港湾BCPBCP」は海域の異なる港湾の相互連携を実質的に進め、災害時には港湾機能の確保と早期回復を図ることを目的とし「港湾利用事業者の代替輸送判断のための情報収集伝達」「被災港の港湾管理機能や港湾施設の早期復旧のための人的支援」を2つの柱としてとりまとめております。今回の訓練では、各管理者や開発局の役割やそれぞれの伝達経路等をまとめた「道央圏港湾BCPの運用資料」に基づき、参加者が各自の役割や伝達経路等の確認を行いました。

また、北海道開発局では、道央圏港湾BCPの協定に基づき、港湾利用事業者の代替輸送判断のために、収集伝達した情報を、HPを通じて広く港湾利用者へ情報提供することとしており、訓練でもHPに情報を公開し確認を行いました。

本サイトでは、常時から各港湾の水深や延長等の施設情報を公開しており、災害時には被災港の施設利用の可否情報に加えて、被災していない港湾の施設情報を確認し、代替港の利用を検討するために活用することができます。また、国土地理院にご協力いただき、

国土地理院が提供する電子国土地図を活用することで、すみやかに施設位置情報も把握することができるようになっていきます。

今後もHP等を活用した訓練を実施し、道央圏港湾BCPの実効性を高めていきたいと考えています。

○ホームページURL

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kowan/bousai/index.html



ホームページの画面

●東扇島基幹的広域防災拠点において防災訓練を実施しました！

(関東地方整備局 港湾空港部)

東扇島基幹的広域防災拠点は、大規模かつ広域的な災害発生時には、主に緊急物資輸送の中継基地として機能することになります。

1月23日(水)午前中に「応急復旧訓練」、午後から「防災拠点管理運営訓練」を副局長以下約100名の参加により実施しました。

午前中の訓練では、首都圏直下型地震が発生し防災拠点にも被害が及び、岸壁のグレーチング脱落や液状化による段差が生じたとの想定で応急復旧訓練を行いました。



また、首都圏臨海防災センターが川崎市から津波避難施設に指定されたため、来園者の津波避難誘導訓練や船舶による帰宅困難者を実施しました。

この訓練は、川崎市・川崎臨港警察署・川崎市臨港消防署と連携して行われ、警察署による防災講話や消防署によるAED取扱講習も併せて実施しました。

